

国連総会で決議

国連総会は12日、ロシアによるウクライナ東・南部の4州併合などへの非難決議を143カ国の圧倒的賛成で採択しました。日本共産党の志位和夫委員長は13日、談話を発表。決議採択を歓迎するとともに、ロシアが無法な侵略・併合をやめ、ウクライナから即時に撤退することを求めました。

総会の討論では平和解決に向け外交交渉を求める声が相次ぎ、決議では「ウクライナの主権と領土保全を尊重しつつ…平和的手段による平和解決」を求めています。談話では、「国連主導による最大限の外交努力を求める」としています。

日本共産党

ロシアは無法な侵略と併合をやめ即時全面撤退を

志位委員長が談話



代表質問する共産党・志位和夫委員長。その左後方は岸田文雄首相=6日、衆院本会議

- ②政府として何の対応もしていない。政府が責任をもって統一協会と政務三役などとの関係を徹底調査すべきだ。
- ③統一協会の名称変更をめぐって行政がゆがめられた疑惑を放置している。首相の責任で調査すべきだ。
- ④最大の「広告塔」だった安倍元首相の調査に背を向けている。癒着の全貌を調査すべきだ。
- ⑤自民党と統一協会=「勝共連合」発足以来の癒着関係がある。過去にさかのぼって調査すべきだ。

細田氏 国会で説明せよ

統一協会とズブズブの関係でありながら3枚の文書を公表しただけで国会の説明を拒否し続けている細田博之衆院議長。「しんぶん赤旗」日曜版編集部は細田氏が世界と日本の統一協会・関連団体トップと並ぶ写真を入手、16日号で紹介しました。

細田氏は、統一協会と単に会合参加にとどまらない深い関係であることを示す動かぬ証拠です。

「赤旗」日曜版スクープ

統一協会トップに囲まれて親密写真



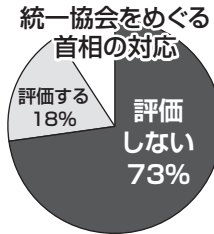
「しんぶん赤旗」日曜版16日号より

統一協会

岸田首相「関係断つ」と言うなら調査を

自民党の国会・地方議員や閣僚などと統一協会との接点が次々明らかになっています。岸田首相は国会答弁で、統一協会が「反社会的団体」であるという認識すら示さないまま「統一協会との関係を断つ」と言いました。衆院代表質問で日本共産党の志位和夫委員長は「『関係を断つ』と言うなら調査を」と求め、「5つの問題点」を示しました。

- ①統一協会との「接点」を議員個人に「自己申告」させ、議員任せの対応になっている。党として責任をもって癒着の全容を調査すべきだ。



アンケート調査(8~10日実施)